

「こんにちは県議会です」地域住民等との意見交換会 開催概要

- 1 開催日時 令和6年9月9日（月） 午後2時から午後4時20分
- 2 開催場所 長野県松本合同庁舎 2階 講堂（松本市大字島立1020）
- 3 参加団体 12団体（順不同）

塩尻市北熊井区、一般社団法人松本青年会議所、公益社団法人塩尻青年会議所、安曇野市商工会青年部、のりくら高原ミライズ構想協議会（松本市）、塩尻市ピアサポート団体「ピアリイ」、ピアサポートshushu（安曇野市）、まめまめの会（松本市、塩尻市）、特定非営利活動法人わおん（塩尻市）、一般社団法人わくわくの村（麻績村）、安曇野市役所・地域見守り活動参加団体（安曇野市）、山形村役場・地域おこし協力隊等（山形村）

4 出席議員

議長	山岸 喜昭
副議長（広報委員長）	続木 幹夫
広報委員	寺沢 功希、林 和明、グレート無茶、勝野 智行、藤岡 義英
会派選出議員	青木 崇（自由民主党県議団） 小林 陽子（改革信州） 小林 あや（新政策議員団）

5 意見交換テーマ

「選ばれる長野県」を実現するために～安心して暮らせる魅力ある地域づくりについて～

6 開催内容

各団体から団体の概要や活動等の発表、グループごとの意見交換

7 参加者 38名（議員10名、参加団体28名）



○開会

(司会：続木副議長)

ただ今から「こんにちは県議会です」を始めます。

私は本日の進行を務めます、長野県議会副議長、広報委員会委員長の続木幹夫でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○長野県議会議長挨拶・県政報告

(続木副議長)

それでは、県議会を代表いたしまして、山岸喜昭議長から挨拶及び県政報告を申し上げます。山岸議長お願いします。

(山岸議長)

皆さんこんにちは。御紹介いただきました長野県議会議長の山岸喜昭です。

本日は、「こんにちは県議会です」を開催しましたところ、大勢の皆様の御参加をいただき、誠にありがとうございます。せっかくの機会でございますので、意見交換に入ります前に少し時間をいただき、最近の県議会の主な取組として、6月定例会での議論などについて、お話しさせていただきます。

6月定例会では、本県が直面しております喫緊の課題である若者・子育て支援のほか、農業や交通、教育など幅広い課題について議論をしたところでございます。皆様も御存知のとおり、日本全体で人口減少が続いている中、本県の人口は、今年2月に約50年ぶりに200万人を下回りました。令和6年8月1日時点で199万915人。令和2年10月1日現在で、204万8,011人ということで、4年間で57,000人減っているということでございます。だいたい年間14,000から15,000の方が減っているということでございます。県におきましては、急激な出生数の減少を抑えるために、保育料や子どもの医療費負担の軽減を図る「子育て家庭応援プラン」の具体化や、若者の就職支援や交流の促進、また男性の育児休業の取得を支援する「パパ育休応援奨励金」の創設などを通じまして、人口減少対策を進めることとしております。知事からは、こうした長野県で子育てをする魅力を発信するための広報事業費や地震防災対策の推進、新たな感染症への対応などを盛り込んだ約30億4,700万円の補正予算が提出され、議会でしっかり審議をし、可決をしたところであります。そのほか、本会議では、食料の安定的な供給をはじめとする私たちの暮らしに直結する農業についての質問や、タクシーの供給不足対策の一つとして、県内でも軽井沢町で始まった「日本版ライド

シェア」、ライドシェアとは、一般のドライバーが自家用車を使って有料で人を運ぶことを言います。また、開業が延期されたりニア中央新幹線の対応などについて議論されたところでございます。

そのほかにも、様々な県政の課題について議論が交わされましたが、これらの議会の活動につきましては、県議会の広報紙や県議会ホームページにも掲載しておりますので、是非御覧いただきたいと思っております。以上、最近の主な取組を紹介させていただきました。

続きまして、本日の意見交換会についてであります。今回は、令和元年度以来5年ぶりに直接県民の皆様のもとにお伺いし、対面での開催とさせていただきました。そして、本日のテーマですが、「『選ばれる長野県』を実現するために～安心して暮らせる魅力ある地域づくりについて～」とさせていただきました。

少子化、人口減少は、本県が直面している喫緊の課題であります。こうした課題に対しては、今現在、県内で暮らしていらっしゃる方々が、これからも安心して暮らし続けていけることはもちろん、「若者・子育て世代や移住者に選ばれる長野県」を実現するための取組が必要と考えております。本日は、まちづくりや移住促進、子育て支援など様々な活動に取り組まれている皆様に御参加いただきました。皆様から、地域の現状と、「選ばれる長野県」を実現するために必要とされるもの、今後目指すべき方向性について、それぞれのお立場から御意見などを伺いたいと存じます。私ども議員活動や、常任委員会としての活動、また「こんにちは県議会です」などを通じて、県民の皆様の声をしっかりお聞きし、これを県政に反映していくということを掲げておりますので、本日参加している議員とじっくり議論をしていただきたいと思います。本日お聞きした御意見は、議会活動を通じて、県の施策に反映できるよう努めてまいりたいと考えております。結びにあたりまして、本日の意見交換が活発に行われ、実り多きものになることを御期待申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願ひいたします。

○出席議員自己紹介

(続木副議長)

続きまして、本日の出席議員から自己紹介をいたします。寺沢議員から座席順にお願ひいたします。

(寺沢議員)

広報委員会副委員長の安曇野市選出の寺沢功希です。本日はよろしくお願いたします。

(林議員)

上田市・小県郡選出の林和明と申します。本日はどうぞよろしくお願いたします。

(グレート無茶議員)

長野市・上水内郡選出のグレート無茶と申します。本音をぶつけていただければと思います。何も付度することはございません。よろしくお願いたします。

(勝野議員)

地元松本市・東筑摩郡選出の勝野智行でございます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

(藤岡議員)

みなさんこんにちは。佐久市・北佐久郡選出の藤岡義英と申します。広報委員もやっております。ぜひ今日は皆さんから意見をしっかり受け止めて、しっかり県政に生かしたいと思っております。よろしくお願いたします。

(青木議員)

松本市・東筑摩郡選出の青木崇でございます。今日はよろしくお願いたします。

(小林陽子議員)

こんにちは。安曇野市選出の小林陽子と申します。本日はどうぞよろしくお願いたします。

(小林あや議員)

こんにちは。松本市・東筑摩郡選出の小林あやと申します。今日はよろしくお願いたします。

(続木副議長)

以上であります。

次に、本日の進め方ではありますが、各団体の皆様から団体の取組などについて御紹介いただき、その後、5つのグループに分かれて意見交換を行います。グループ分けは、なるべく異なる団体との組み合わせとなるようにいたしました。

また、本日実施した内容は概要を文書で取りまとめ、写真等とともに、後日、県議会のホームページに掲載するなど、議会広報に活用させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○参加団体からの発表

(続木副議長)

それでは初めに、本日御参加いただきました各団体の皆様から、団体の概要や活動などについて発表をお願いしたいと思います。進行の都合上、恐れ入りますが、1団体3分以内でお願いいたします。なお皆様のお手元に、参加団体の概要資料を配付してございますので、参考にしてください。

初めに、塩尻市北熊井区さんお願いいたします。

(塩尻市北熊井区)

我々の区は、塩尻市の高ボッチ高原の西側にある急斜面の所です。信州F・POWERプロジェクト、ちょうどその場所でございます。

地域の自治は課題がいろいろありますけれども、解決するためには住民同士が協力し合うことが必要でございます。コロナ禍を契機にいたしまして、今、自治の弱体化が急速に進んでいるところでございます。このことは人口の減少や家事、育児、介護などの負担の増加、あるいは就業年齢の上昇などの影響もありまして、地域活動への参加が非常に難しくなってきたということや、情報技術の向上によって生活の利便性が向上して、地域活動の必要性が低下している、このことが自治の弱体化につながっているわけでございます。しかしながら、地域においては、少子化や高齢化によりまして、自治会の組織の見直しや役員の負担軽減等が迫られるということで、課題は山積している状況にあります。当区も全く同じ状況でございまして、現在、悩みながら連携を推進しているところでございます。

本日は、今年度の区の活動計画の一端でございます、防災公園の建設について報告をさせていただきます。この公園ですけれども、防災機能を持たせた避難場所の設置

と、地域の憩いの場としての公園を整備する計画で、県の「地域発元気づくり支援金」の事業として採択され、着手しているところでございます。整備にあたりましては、地域住民が参加する共同作業を年4回実施しています。芝刈り、花植え、駐車場の整備、グラウンドづくり、砂入れ、あるいは草刈り等々の作業を、住民全員で実施をしているところに特徴があります。この作業には子どもをはじめ大勢の区民の皆さんに参加いただいて実施しているところでございます。共同作業の狙いは、地域コミュニティの構築を図るとともに、お互いが助け合うことで、災害時や緊急時に住民が結束して行動を起こせる関係を作ることです。地域には多様な職業の方、経験者、あるいは技術者もいらっしゃいます。こういう皆さんにお集まりをいただいて、男女問わず住民が交流し合う場を作ることが大切だということで進めているところでございます。このような作業を継続的に行っていくことが、安心・安全で住みやすい地域づくりの第一歩だと考えて、現在推進を図っているところでございます。全員が出てきて話し合うのが第一歩でございます。そういう機会を多く設けることで推進を図っているところでございます。ありがとうございました。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次に、一般社団法人松本青年会議所さんお願いいたします。

(一般社団法人松本青年会議所)

よろしくお願いいたします。松本青年会議所は、構成員が現在75名、主な活動地域は松本市、安曇野市、山形村となっております。20歳から40歳までの青年経済人の団体でございます。

本年度は様々な運動を展開しておりますが、いくつか申し上げますと、まず一つは松本城・城下町をテーマにし、小学生の皆さんと一緒にカードゲームを作る企画を行っております。すでに事業は進んでおり、もう完成しております、今週お披露目の予定となっております。また同様に松本城をテーマにして、先月タレントの田村淳さんをお呼びしてトークセッションを行いました。松本市内の250名の市民の方が参加し、今後の松本城の活用や保存について議論をさせていただきました。その他にも、松本市内に住む外国人の皆様とどのように生活していくかという多文化共生の問題、また、信州松本空港の活性化の問題についても、真剣に取り組んでおります。松本青年会議所は40歳までの団体で、毎年構成メンバーが変わりますが、一貫して明るい豊かな社

会の実現を目指して、この町のために活動しております。よろしくお願いいたします。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次に、公益社団法人塩尻青年会議所さんお願いいたします。

(公益社団法人塩尻青年会議所)

どうぞよろしくお願いいたします。先ほど松本青年会議所さんがおっしゃいましたとおり、塩尻青年会議所も 20 歳から 40 歳の若者が集まる団体でございまして、自分たちが勉強したものを社会に還元することで、明るい豊かな社会を目指そうという理念のもと、日々活動しております。

塩尻青年会議所では主に、地域の活性化を目指すまちづくり事業、青少年の育成事業、それから研修事業の三つの事業に取り組んでおります。本年度は、まちづくり事業の一つの柱として、「仮装のまちしおじり」の提案を掲げさせていただいております。皆さん御存知かわからないんですけども、塩尻は 30 年以上前から、ハロウィンイベントを町ぐるみで興してきてございまして、毎年 1 万人以上の御家族の方に楽しんでもらっている素晴らしい財産がございます。それをもっともっと拡大して、塩尻をもっと仮装で楽しい町にしていこうじゃないか、という提案ができないかということで、1 年間事業を行わせていただいております。また青少年の育成事業では、政治教育を一つのテーマとして 1 年間活動しております。すでに事業自体は終わっているんですが、どうやったら自分たちが政治に関わることができるのかを実感してもらうために、請願の手法を中高生にレクチャーする事業を行いました。また、先月、ウクライナ大使館へ訪問いたしまして、実際に職員の方やウクライナの方といろいろお話をし、政治に興味を持ってもらう場を提供させていただきました。また、来月は、今私たちの環境を取り巻く AI の活用について、もっとしっかり学んでいこうということで、事業を展開させていただく予定です。このような事業を通じて、自分たちも勉強しながら、社会により良いインパクトを与えていくことを目的として活動しております。

今、非常に情報が多く、氾濫する社会になっており、どうしても自分たちの広報が埋もれてしまうところに課題を感じております。おそらく今回参加している団体も、自分の情報を見てももらえないというところがかかなりあるのかなと思いますので、ぜひそういうところも含めて、今日は皆様と情報交換、意見交換させていただければと思

っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次に、安曇野市商工会青年部さんお願ひいたします。

(安曇野市商工会青年部)

安曇野市商工会青年部の御紹介をさせていただきます。会の目的ですが、商工会の事業を積極的に推進するとともに、商工業の経営者、後継者としての資質向上に努め、商工業の総合的な改善・発達を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に資する、でございます。

構成員は、令和6年4月現在で、商工業の若手経営者、または後継者の59名です。主な活動地域は、安曇野市内。安曇野市は旧5町村が合併しておりますので、三郷、堀金、豊科、穂高、明科と広範囲にわたっております。

取組内容ですが、ゴミゼロキャンペーン等の地域への奉仕活動、安曇野市ハーフマラソン「エイドステーション」の運営、クリスマス慰問事業、異業種間の情報交換、地域イベントの運営協力となっております。

地域課題ですが、今感じていることは、現在59名の会員がおりますが、昨年までは70数名おりました。一度に減っていくのが大きな課題になっております。人材不足です。安曇野市商工会青年部は以上となります。ありがとうございました。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次に、のりくら高原ミライズ構想協議会さんお願ひいたします。

(のりくら高原ミライズ構想協議会)

よろしくお願ひいたします。乗鞍高原は松本市の市街地から岐阜県側に車で1時間ほど、岐阜県との県境、乗鞍岳の中腹です。そちらで今進んでいる、地域づくりの取組を御紹介させていただきます。

まず、「のりくら高原ミライズ」という地域ビジョンがございます。こちらは令和元年に地域住民とのワークショップ、アンケート調査を実施してから、環境省で、地元の関係者をまとめてワーキングを実施して、その後に策定されたビジョンになりま

す。乗鞍高原が国立公園の一部ですので、環境省がこういったことを推進されている背景があります。このビジョンですけれども、乗鞍高原が直面している課題、そして持続可能な地域づくりのあり方、また今後の具体的な取組についても記載されています。様々な関係者さんが共同で地域づくりをやっていこうという中で、迷いが生じた時に、進むべき方向を示してくれる、共通の価値観、指針として活用していくものとなっております。

具体的に何が記載されているかなんですけども、冒頭で、「乗鞍宣言」ということで、地域住民の方たちが乗鞍への思いを綴った部分ですとか、30年後にこうありたいという姿が記載されております。乗鞍は観光地であり、また自然が本当に豊かな場所で、ゼロカーボンパーク、国立公園としても、その中に人々の暮らしが営まれているという特徴があります。そこで環境と暮らしと観光、この三つの要素を基盤として、それぞれが相互作用しながら持続可能な地域社会を形成していくということが、目指すべきビジョンになっております。それに基づいて、具体的な重点取組事項を七つ掲げております。地球環境問題の解決、人と自然がつながる地域づくり、環境配慮型二次交通システム、乗鞍岳を象徴とした高原景観の形成、四季を通じて人が絶えないトレイルづくり、ワーケーションの推進、乗鞍高原の魅力を最大限に表現するプロモーションへの挑戦、となっております。いろいろな場所で乗鞍の魅力を楽しみながら自然を守りつつ、かつ観光地としてまた地域として活性化していくものとなっております。

このビジョンに基づいて、同年に「のりくら高原ミライズ構想協議会」が設立され、この中で具体的に取組を進めているところです。この協議会は、地域づくり、草原再生・景観形成、フィールド整備、ゼロカーボンの4つの分科会に分かれております。それぞれの分科会の中にさらにプロジェクトチームを立ち上げて、地元の方が行政と一緒にプロジェクトを進めているところです。2から3ヶ月に一回ぐらい場を設けて活動の進捗を全体に共有する取組を行っています。

始まったばかりの取組で、地元の方々が本当に忙しい中でやっていて、活動内容も非常に多岐にわたります。その中で、課題の一部になるんですけども、例えば地域づくりですと、「長野県移住モデル地域」に指定されまして、移住検討者は増えつつあるんですが、すぐに入居可能な空き家がなかったりと、すぐに移住するハードルが高いところがあります。それもあって、自発的に空き家の調査や自治体と共同で相談窓口を設置する取組をしていますが、地元だけでは難しいところがあります。また、国立公園なので自然を守っていくことが本当に大事なのですが、生物多様性保護のため

の取組や外来種駆除を、今、地元の方がほとんどボランティアでやっている状況で、人的、資金的リソースが厳しいところがございます。私からの発表は以上となります。ありがとうございました。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次に、病児や障がい児、その御家族などへの支援をされている、塩尻市ピアサポート団体「ピアライ」さん、安曇野市の「ピアサポート shushu (シュシュ)」さん、松本、塩尻地域で活動されている「まめまめの会」さんの3団体から、塩尻市ピアサポート団体「ピアライ」さん、お願いいたします。

(塩尻市ピアサポート団体「ピアライ」)

お願いいたします。ここではピアライの御紹介をさせていただきます。まず「ピアサポート」という言葉を皆さん御存知でしたか。同じような立場や境遇の仲間同士が共に支え合い、共に成長していくことを示しています。ピアライが目標としていることは、ピアサポートを通して安心してつながれる居場所づくりを目指すこと、心のケアを軸としながら子どもを輝かせるために頑張っている御家族に輝いてほしいということです。

活動の内容を一部紹介させていただきます。まず御家族の心のケアとして、月1回おしゃべり会を開催しています。お母さんたちとやりたいことを話したり、やりたいことを盛り込んだ企画を運営しています。また、心のケアとして、物理的支援などお母さんたちの悩みを聞く心のサポートを行っております。

次に、行政、医療、福祉、地域との連携として、塩尻市長や福祉、教育の職員などに、制度やサービスの適切な確保、改善の提案を行う対談を大切にしています。また、社会福祉協議会や相談支援専門員の会議に出席したりし、各団体との情報交換も大切にしています。去年は、阿部知事とピアサポート shushu さん、まめまめの会さんと一緒に、市や県の課題について対談をし、これがきっかけとなり、塩尻市に不足している総合的な相談窓口が設置されました。また、ピアライが立ち上がる前ですが、令和3年には、お母さんたちとアンケート調査を実施し、阿部知事に届けました。寺沢県議会議員に県議会で質問をしていただいたことにより、令和4年4月に「医療的ケア児支援センター」が設立されるきっかけにもなりました。

次に、御家族のリフレッシュと就労支援についてです。まちのイベントにブースを

出してピアリイのことを知っていただく機会を大切にしています。お母さんたちがやりたいことを形にし、ブースを出展するなど輝く場を提供しています。今年度も当事者のお母さんたちとワークショップをするなど憩いの場をつくりました。

次に、地域とのつながりについてです。塩尻市へ提案してできた企画ですけれども、医療的ケア児やそのきょうだい児が、子育て支援センターに遊びに行こうという企画です。感染に弱い医療的ケア児が、安心・安全に個人情報を守りながら遊べる企画となっております。

また、啓発活動として、長野県内の連携する病院や医療従事者の皆さんに対して、当事者として講演会を行っております。また、県内の看護師、お医者さんを目指す学生に向けても、講義をさせていただいています。去年は山本美里さんの「透明人間」という写真展を行いました。図書館というパブリックな空間を使用し、医療的ケア児の現状や御家族の実態を、たくさんの方々に見ていただくきっかけをつくりました。足早ですが、御紹介とさせていただきます。ありがとうございます。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次に、特定非営利活動法人わおんさんお願いいたします。

(特定非営利活動法人わおん)

こんにちは。特定非営利活動法人わおんは、主に子どもたちの自然体験、子育てサロンは平日空いているときに月2回開催しています。そして身近な里山で地域の資源を生かしている様々な活動をしており、地元の森で森林浴のイベントもしています。子育てサロンは、わおんが拠点としている、旧柏茂会館という2階建ての古民家で、リノベーションをした場所なんですけれども、1階は30畳ぐらいの広さの畳や縁側があります。昨日開催した5歳から3年生までのイベントでは、近くの沢でサワガニを11匹見つけたり、サワガニの出産が見れたり、サンショウウオがいたり、そんな自然豊かな場所です。まだ保育園に行っていない小さなお子さんを持つ親子の方たちが平日来るんですけれども、好きな時間に来て、好きな時間に帰ります。夏は水遊びをしますが、自然を満喫できるように夏以外では散歩も多く行っています。室内では木のおもちゃを揃えています。自由に遊べる環境、安心して過ごせる雰囲気을大事にしています。実家に帰ったような雰囲気を大事にしています。実家に帰っておばあちゃんがお料理作ってくれるイメージがいいなと思い、汁物だけはスタッフが作り、おにぎり

持ってきて、みんなで一緒に御飯も食べています。毎回5組から10組くらい来てくれて、その中にはいつも御夫婦でお子さんを連れてきたり、時にはお母さんとおばあちゃんも一緒に来てくれる姿も見られます。お母さんからは、ここにいると子どもを叱らないでいられる、自然の中で癒やされる、こんなこともするんだと子どもの成長に気づかされる、という声も聞かれます。小さい子では6ヶ月くらいの赤ちゃんも来ます。赤ちゃんから3歳くらいの子で、小さい子が赤ちゃんを見て、かわいいねなんて言ってくれる姿も見られ、お互い刺激になって遊びも広がったりしています。それと、家では野菜を食べないけど、ここに来るとスープとかお味噌汁の野菜を食べたという声も聞かれます。

地域の課題ですが、質問するとお金が欲しいって言っている人はいません。子育てをフォローしてくれる家族もいるので困らないという声が聞こえます。だけれども、悩みや不安に思うことは複雑で、近所の人、アパートの下の人がいつも苦情を言うので、その人がいるときは外になるべく行っている。田舎の塩尻市でもそうなのかと思い驚きました。また、子育て支援センターに行くと、お母さん同士が気を遣ったりして、子育て支援センターに行かないという声も聞かれます。お父さんが育休を取られている方も増えてきているんだけど、毎日帰りが遅いと、一人でお風呂に入れて、子どもを見ながら料理を作るのが大変という声もよく聞かれます。都会のお金持ちの方だと、ベビーシッターとか家事代行とか、そういうのが聞かれるようになりましたけど、この田舎ではまだまだ、在宅で誰かがヘルプに入ってくれる雰囲気がないなど。本当に困った時に そういう人的支援があったらと思いました。また、ボランティアでやっているんですけども、これから70代まで働かなきゃいけない人たちが増えた時に、こういうボランティアをしてくれる人がいるのかなって思います。わおんの活動に来てくれる人たちはいいんですけど、家で、スマホで子守りをしているほうが楽な方たち、親同士のコミュニケーションが苦手だからそういうところに行かず家にいる方たちのフォローをどうしていくのか。また、子育て支援については、多分20年前から塩尻市も全国一位みたいなことを謳っているんですけど、なんで長野県の10代の自殺率が全国上位なのかと。子どもたちの幸福感や自己肯定感を高めるための子育て支援の見直しが必要ではないかなと思います。

特定非営利活動法人わおんのホームページには、子どもたちの生き生きした体験の様子やいろんなイベントが出ていますので、ぜひ御覧ください。3年生から自然探検隊のプログラムに来ていた子が高校生になって、スタッフとして来てくれるなど、そういう良い成長も見られて嬉しく思っています。また皆さんの御支援もよろしくお願

いします。以上です。ありがとうございます。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次に一般社団法人わくわくの村さんお願いいたします。

(一般社団法人わくわくの村)

よろしくをお願いいたします。一般社団法人わくわくの村は、2022年の5月に活動をスタートさせ、2024年2月に一般社団法人を立ち上げました。3年目の団体になります。活動内容は主に三つです。

一つ目が自然村です。自然村は先ほどの特定非営利活動法人わおんさんとも似ているんですけども、自然を使って子どもたちを中心にいっぱい遊ぼう、そして自然の中においしいものがいっぱいあるから、それをみんなで食べよう、という世代を超えてみんなで遊んでいる活動です。

二つ目が居場所支援です。麻績村は2,000人強の人口ですが、それでも学校に行けないお子さんですとか、保育園はちょっと考えが違うというお母さん方の声を聞きます。麻績村は谷あいの村なので、村外に出るのに高速道路を使ったり、くねくねした道を行かないといけません。弱っているときにそれだけ労力を使うのは難しいので、できればこの谷あいで第三の居場所を作りたいなと思って活動しています。

そして三つ目が「じかんぎんこう」です。これはすごく可能性があるなと思って頑張っているところですけども、「じかんぎんこう」は、みんなが平等に持っている時間を使った支え合いの仕組みです。できるときにできることをできる範囲でやっていく。ちょっと肩貸してほしいなと思うときに、誰かいないか事務局に聞いていただいて、私たちが探してそれに答えていく活動です。今年3月に長野県知事にもお話しさせていただく機会がありました。知事からもとても素晴らしい活動だと言っていたいています。知事からは「じかんぎんこう」という活動をどうやったら長く続けていけるか、入っていただく方にも安心して入ってもらえるには、どうやったらいいと考えているか、というお話をいただきました。実際私たちの団体も、運営費等どうしていくか悩んでいるところです。なので、どうやったら安心してずっと入っていただけるかは、私たちもこれから考えていかなければいけない課題と思っています。

「じかんぎんこう」が盛んに行われているスペインでは、行政が人材ですとかお金の支援もサポートしていると聞いています。なので、ぜひ長野県でも麻績村でも、行

政と一緒にこういった取組ができていければいいと思っています。お母さん方からいろんな子育ての相談をいただきます。行政ではできないけれども「じかんぎんこう」、民間だったらできる活動はいっぱいあると思います。それを行政と民間と一緒にやっていく、一緒に支援し合えるようになっていけば私たちも運営が楽になっていくと思っています。ありがとうございました。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次に、安曇野市役所さんお願いいたします。

(安曇野市役所・地域見守り活動参加団体)

私から、高齢者、障がい者の安曇野市地域見守り活動について報告いたします。安曇野市の状況ですけれども、人口は95,953人、65歳以上人口は30,753人、高齢化率は32.1%となっております。高齢者の単身世帯ですけれども、4,029世帯となっております。高齢者の中でも、特に団塊の世代が2025年を迎えるということで、後期高齢者の割合が高くなってきております。全国的な状況と同じように、人口減少や少子高齢化、また核家族化も進んできております。地域によりましては、高齢化率40～50%を超えるところもできております。

そのような中、誰もが住みなれた地域で安心して生活できるようにするために、平成29年2月から、市と団体、事業所等が連携、協力した安曇野市地域見守り活動を始めております。特別なものではなく、それぞれの仕事の中で、見守りの意識を持ってもらうことで、高齢者、障がい者の方が緊急事態の時に、適切かつ速やかに対応する地域を目指しております。これまで31団体と締結し、毎年2団体ほどと締結を進めてきております。本日は民生児童委員や区長、またNPO法人の3団体と事務局で参加させていただいております。

参加団体の取組ですけれども、参加団体は、市と見守りに関するネットワークの構築に取り組んでいただき、業務での訪問や仕事の移動中などに、異変のある高齢者、または何らかの支援を必要とする高齢者を見かけた場合は、業務に支障のない範囲で市に報告をしてもらうことになっております。例えば、数日にわたって玄関や郵便受けに新聞や郵便物がたまっていること、庭先に洗濯物が干してある状態であること、普段と明らかに様子がおかしい、違うなと感じたことがあった場合に、連絡してもらうこととしております。連絡を受けた市の窓口では、その方の情報を把握するととも

に、地区の民生児童委員とも連携、協力して、安否確認や支援をお願いしております。緊急時の場合は、その場ですぐ、警察や消防にも連絡を取っていただくようお願いしております。昨年報告がありました具体的な事例ですけれども、高齢者の一人暮らしのお宅の訪問をしたら、新聞が3日ほどたまっていたため、市に連絡をいただき確認したところ、その方は緊急で入院をしたことが分かった事例がありました。また、いつも同じ時間に宅配をしていたところ、インターホンや電話でも反応がない方がいて、市に連絡をいただき確認したら、その方は隣のお家で過ごしていたことが分かった事例がありました。また、訪問時、高齢者が倒れていた場面もあり、そういうときに救急車を要請し、一命を取り留めたということがありました。いずれも見守り活動の中でうまくいった事例とっております。また、金融機関の窓口ですと、多額の現金の払い戻しをしている高齢者を見かけた職員が声掛けし、福祉の窓口や警察とも連携いただいで、生活上の見守りができた事例の報告を受けております。一方、今年度に入り、今まで医療や介護につながっていない70歳代の一人暮らしの高齢者の方が、残念ながら孤立死と言われるような事例もでております。日頃の業務や活動の中で少しの目配りや気配りをするすることで、地域の見守り活動が進んでいくのかなとっております。

参加団体には、市が実施する研修会や、地域づくりの活動に積極的に参加いただき、住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりを進めております。これまで見守り活動協定をきっかけに、企業と連携、共同した介護予防・フレイル予防の取組も進んでいます。一例として、ダイハツ工業で、高齢者向けの健康安全運転講座を開催した経過もあります。それぞれの持っている企業の強みや、拠点等を生かした取組がされてきております。見守り活動のために、認知症サポーター養成講座の開催等協力いただき、認知症を正しく理解し、認知症の方への対応についても、知識を持って活動いただいております。地域課題につきましては、高齢者人口の増加、一人暮らし世帯の増加、地域団体の役員のみ手不足、それによる活動の縮小、解散がございます。また、この活動を行う上で、個人情報取扱い、本人の同意がなかった場合に、どこまで相談、通報すべきか非常に悩むことが挙げられております。この辺りについても、今日意見交換できたらと思っております。

(続木副議長)

ありがとうございました。

最後に、山形村役場さんお願いいたします。

(山形村役場・地域おこし協力隊等)

本日はよろしくお願いいたします。本日この場に山形村役場の職員と地域おこし協力隊、それから移住支援ボランティアの3名でお邪魔させていただいております。今回は私から、村の移住施策に関わる取組についてメインでお話しさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

山形村での移住・定住における主な取組として、短期と長期、2種類のお試し住宅を用意して、移住・定住をサポートしております。

はじめに短期お試し住宅になりますが、空き家を改修、リフォームして、令和4年6月から施設が稼働しております。2泊以上30泊以内という条件をもとに御利用いただいております。1泊2,000円の宿泊料により運営をしております。施設の稼働率になりますけれども、令和4年度、令和5年度ともに50%超となっております、冬期の稼働は落ちてしまうんですけれども、春から秋にかけては予約が絶え間なく入っており、大変御好評をいただいております。実際の移住に際して、季節の寒暖差の体験を目的にリピートしていただける方もおり、実際に移住につながったケースは、これまで把握している中で5件存在しております。また、入居者のうち移住相談を希望する世帯、もしくは個人に対して、移住支援ボランティアの移住相談を実施しており、実際に移住した時のお話を住民目線でお話ししていただき、山形村のリアルを伝えていただいております。その他、同じ敷地内に地域のコミュニティ拠点施設「コミュニティハウス『ふらっと』」を設置しておりますが、こちらの施設を活用した地域住民によるマルシェなどのイベントだとか、地域おこし協力隊員が整備している畑での農業体験など、少しでも山形村を知っていただけるような体験型の事業を展開しております。

続きまして長期のお試し住宅の方になりますけれども、こちらは令和5年度に県の「地域発元気づくり支援金」を活用させていただいて、旧教職員住宅の二棟を改装して整備を進めており、今年度の4月から入居者の公募を行った結果、すぐに申込みがあり、入居を開始しております。前述の短期お試し住宅との大きな違いとして、1年を通じて入居していただくことで、地域コミュニティの活動への参加だとか、山形村での継続的な暮らしの体験によって、具体的な移住・定住に向けての準備を進めていただくことが大きな目的となっております。最長2年間入居することができ、光熱水費なども御自身でお払いいただく、アパートメントの形態をとっており、月額4万円の賃料により、今年度から運営をスタートしています。

最後になりますけれども、山形村は、15年ほど前までは人口が右肩上がりに増え続

けていました。平成 21 年度には記録に残っている中で、住民基本台帳上、8,830 人もの方が居住しておったんですけれども、先月、8 月 31 日時点では人口 8,500 人ちょっとということで、人口が少しずつでありますけれども減少しております。緩やかな人口減ということもあり、山形村では居住施策に乗り出したのが遅く、他市町村と比べると施策がまだまだ豊富ではないです。今後も居住希望者の目線に立った施策の検討をして、展開していく構えでございますので、よろしくお願いします。

○意見交換

(続木副議長)

ありがとうございました。

続いて、意見交換に入ります。テーマは「『選ばれる長野県』を実現するために～安心して暮らせる魅力ある地域づくりについて～」であります。ただいまの発表に関連する御意見、魅力ある地域づくりに求められるもの、あるいは、県への御意見や御要望などについて、5つのグループに分かれて意見交換をお願いいたします。

(意見交換 50 分間)

○意見交換感想発表

(続木副議長)

意見交換、お疲れ様でした。

それでは、各グループを代表して、A、Bグループは広報委員、C、D、Eグループは、会派選出議員から意見交換の内容、感想を発表してください。進行の都合上、1グループ3分以内でお願いいたします。

まずAグループ、林議員お願いします。

(林議員)

それでは最初にAグループから発表させていただきます。「選ばれる長野県」に向けた地域づくりということで、参加団体の皆様から様々な御意見をいただきました。暮らし続けることができる地域、若者・子育て世代、移住希望者が重視すること、でございますので、やはりまず出たのは子育て支援でございます。若い世代だけでは子育てが難しい状況のため、地域の高齢の方との接点をうまくつくる、例えば二世帯住宅への支援、また地域の御高齢の方に子育て支援をしてもらうための施策などの御提

案もいただいております。また、長野県と都市部等での賃金格差について、御指摘をいただいております。起業支援を県として推し進めていただきたいといった御要望をいただいております。また、長野県ならではの魅力に関しても、リニューアルされる銀座NAGANOを活用して、長野県の住みやすさ、田園風景の良さ、物価の安さなど、長野県に人を呼び込むための情報発信を、首都圏に対して行っていただきたいという御意見をいただいております。

長野県の課題として、生活の基本的なところに関わる看護師、介護士の人材不足の問題から、待遇支援、賃金支援について意見をいただき、また不登校児童の増加についても課題として受け止めました。グループの中で出た御意見、課題をしっかりと県政につなげてまいりたいと思っております。Aグループの中で出た意見としてまとめさせていただきました。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次にBグループから、寺沢議員お願いします。

(寺沢議員)

私たちBグループでは、最後まで意見はまとまりませんでしたし、結論は出ませんでした。それはそうですね。意見がまとまって結論が出れば、皆さん悩んでいないわけですから。それだけ大変難しい課題だということでもあります。

さまざまな意見が出ましたが、移住者の受入れに関しては、それまで地元にいる皆さんが移住者をよそ者という扱いをして、受け入れないところがあり、移住者もその地域のしきたりや今までの文化になじめないところがあって、そういった部分が難しい課題だという意見がありました。人間の心情に踏み込んでいくのは難しく、やっぱりここは時間が解決するんじゃないか、あるいは世代が変わらなければ無理なんじゃないかという意見で落ち着いたところでもあります。

一方で魅力って何かといったときに、地元に住んでいる皆さんには、全てが普通なことなので、魅力がなかなかわからない。だから、その魅力を発見してもらう、掘り起こしてもらうには、外から来ていただいた人に見てもらい、伝えてもらうことが重要で、そういった魅力の掘り起こし、まとめるところは、様々な世代が必要であるし、移住者と地元の人と一緒に魅力の掘り起こしていくことが重要ではないかという意見が出ました。このグループに、移住をされた方がおられまして、地元の人たち

に魅力を聞くと、おらが地域には何もないということを言われる方が多いと。地元には魅力がたくさんあるんだから、地元の皆さんが自信を持ってと喝を入れられました。

これからは私どもも地元で自信を持って、普通じゃなくこれが魅力なんだと、より一層発信していかなくちゃいけないと改めて感じたところでもあります。今日は中信地区、松本市、塩尻市、安曇野市それから東筑摩郡から、地元議員が6人出席させていただいております。地元議員を初めて見たという方もいらっしゃるんじゃないかと思えます。まだまだ県議会議員として活動、情報発信もしなくちゃいけないところがあります。今日出席している6人以外にも県議会議員はおりますし、またそれぞれの市、村にも、市議会議員あるいは村議会議員がたくさんいらっしゃいます。ぜひとも、そういった議員を使っていただいて、協力をしていただいて、それぞれの地域を盛り上げていただければと思います。皆さんとともに、がんばって地域を盛り上げていければと改めて感じた意見交換でした。ありがとうございました。

(続木副議長)

ありがとうございました。

次にCグループ、青木議員をお願いします。

(青木議員)

はい、それではCグループの発表をさせていただきます。

Cグループで出てきた意見の総論として、長野県は既に外国人にも日本人にも、移住先としても観光地としても選ばれているんだけど、それを留められていないことが課題ではないか、ということが挙げられました。テーマとしては住居、観光客の受入環境、交通の状況、また外国人や多様な方々を受け入れる環境などの整備がまだまだ足りていないというお話が出てきました。

各論で申し上げますと、例えば外国人観光客のバスの接続や観光バス待ち環境の整備がまだまだできていない状態で、外国人観光客がたくさん押し寄せてしまっている状況がある。その部分の連携をもっと進めなくちゃいけないことであったり、二次交通が充実していないことで県内の滞留につながっていないということ。また外国人の継続的な受入環境、支援体制もできていないんじゃないかというお話もございました。外国人や、例えば障がいを持っている方、障がいを持っている子どもを持つ方、また若い人から高齢者まで、いろんな人たちがみんなが集まれるような、共生の場を多層的に多発的に整備していく。そういったことにより、この街の多様性を育てていくこ

とが、この地域の安心して暮らせる環境整備に必要なんじゃないかという意見も出てきました。あと、今、学校でイベントの紙が配布されなくなってきていて、子どもたちの体験格差にもつながっているだろうということで、デジタルツールで情報共有はされているんですけども、結局好きな情報しか受け取れない、取捨選択されてしまうところがある。紙の配布に近い、例えば回覧板のような制度をもう一回考えてもいいんじゃないかという意見も出てきました。また、乗鞍地域ではデュアルスクールをやっているんですけども、そこに来てもらうと、この地域への移住をしっかりと決めてもらえるということです。地域の魅力はあるんだけど、受け入れる住宅がなく、東京で子育てしたり、東京で暮らしていくことに限界を感じている人たちに興味を持ってもらい、定住してもらえる環境を、行政もしっかりやっていくことが重要じゃないかという意見も出てきました。

いろいろな意見が出ましたが、最終的に、もっと県議に当事者の皆さんの声を聞いてほしいという御意見をいただきました。子育て世帯で悩みを抱えている人、特に女性は課題がたくさんあるんじゃないかという話もあり、ワンオペ育児に直面している女性の方々、そういった方々の声を聞いて、男性も含めて、育休をもっと取りやすいような整備をもっと真剣に進めてもらいたいという御意見をいただきました。また、合併した地域は、地域の実情や声が届きにくかったということを実感するところもありましたので、そういった声をしっかりと受け止めながら、この地域でしっかりと定住してもらえる環境を作ることが重要だということを改めて実感したところでございます。

(続木副議長)

次にDグループ、小林陽子議員お願いいたします。

(小林陽子議員)

はい、それではDグループの発表をさせていただきます。Dグループは、子どもを安心して育てられる環境が、選ばれる長野県として大事ではないかということで、その課題についてさまざまな意見がありました。乗鞍地域や山形村では、スローライフを目指して移住したい方がいらっしゃるんだけど、実際そのコミュニティに入ると地域の仕事をしたり、消防団に声をかけられたりと、そういったことで忙しく、思っていたことができない。ですから、二拠点生活をしたい人が多い。山形村がやっているお試し住宅がそうですけれども、二拠点生活をしてみて、そして移住につながるやり方ができるような整備をしてほしいという御意見をいただきました。空き家につ

いて、相続登記セミナーなどを県でも開催してほしいとか、空き家に対する啓発を厚くしてほしいという声、それから子育て世帯が二拠点の生活をお試しできる、例えば保育園にも入れる制度が欲しいという御意見もいただきました。それから長野県の魅力として自然の豊かさがありますので、山や川の整備をきっちりやって、長野県のブランド力をしっかり上げる、自然を大切にすることが選ばれる長野県の大きなポイントになるのではないかとということです。その中で、最近のクマの被害などがありますけれども、鳥獣害をどう防ぐのか、人間とクマの居住地域を分けていく、安心につながることも大事だということです。そして、子育て支援の中では、医療的ケア児の当事者であるピアリイさんが活動されていますけれども、当事者が一生懸命声を上げないと改善がされない状況、これはみんなで何とかしていかなければいけないのではないかと御意見もありました。松本地域には子ども応援プラットフォームがありまして、松本地域振興局が事務局をやっています。こういったことも皆さんで参画をして、子育て支援の環境を整備していったらいいのではないかとということです。

また、こうした問題提起をしたら、行政には改善に向けて動いてほしいというお声もいただきました。市町村によって対応に差がありますので、県議会議員としては、対応に差がないように、しっかり皆様の御意見を聞きながら、改善に向けて動いていければと思いました。また、行政や地域と課題を共有できていないのが大きな課題であるので、県議会議員としてもしっかり活動していきたいと思いました。

最後に、私の感想として、長野県が選ばれるためには、コミュニティをどう作っていくかが大事だと思います。いろんな方が長野県に魅力を感じて来てくださるんだけど、いろんな方の願いが叶えられるような、あったかなコミュニティを作っていければと思えます。ただ、これは今までのようにボランティアでやるということではなく、仕事として持続可能に、活動費が捻出される形でできることが重要ではないかと思いました。以上になります。

(続木副議長)

最後に、Eグループ、小林あや議員、お願いいたします。

(小林あや議員)

それでは、Eグループの意見交換の内容を発表させていただきます。まず、Eグループのメンバーの背景、課題に感じられている内容として、経営者の団体、高齢者の見守りの団体、「じかんぎんこう」の取組をしている団体、乗鞍高原の地域づくりな

どをしている団体というメンバーで話し合いました。

先ほど他のグループからも出ていましたけれども、乗鞍のまちづくりにつきましても、移住に対しての関心が非常に高く、実際に移住を希望する方がいるけれども、その受入体制の整備が追いついていないんだと。観光地における移住政策となると、一軒家が少なく空き旅館が多いので、一世帯が移住してくるには大きすぎる、上手くマッチングできないという現状が挙げられています。一軒家が欲しくてもなかなかいい条件にめぐり合えない、あるいは、家主が所有権を手放すことに最終的に躊躇されることもあります。しかし、乗鞍は長野県移住モデル地区に指定されています。指定されただけではなくて、さらにもう一歩踏み込んでほしいという発言がありました。

一方で、大きな旅館等の空き家を、民泊みたいに使ってみるのはどうかという発言も出ました。例えば、高齢で首都圏に暮らしている方たちが、夏がすごい暑く、涼しい信州に行きたいと思ったとき、一泊数千円のリーズナブルな民泊ができれば、多くの方たちがいらっしゃるんじゃないか。高齢者にレジャーを提供することも、一つ大きなポイントになるんじゃないかという話がありました。また、車の免許を返納すると、どうしても外に出る機会がなくなってしまう、老いが進んでしまうという課題もあります。高齢者でもできることはたくさんあるので、ちょっとしたお子遣い稼ぎができる仕組みが欲しいという話も出ておりました。

あとは、地元で親戚がいなくても子育てできる環境があるべきという発言や、夫婦共働きの中でも、特に妻も夫も社長業だったり、個人事業主だったりする場合、ともそだての時間をどう作るか、という難しさ。待機児童になるなど、いろいろ課題にぶつかるといってお話がありました。これからの社会を作っていくにあたっては、これまでの社会システムへのこだわりを見直して、前例のないことをどう捉えて進めていくか、という意識を作り上げていくことが一番大事だという共通認識を持ちました。いずれにしても、長野県の良さは来てもらおうとわかるので、機会を作る場を増やしていくと同時に、受入体制の整備、さまざまな価値観を改善、発展させていくことができれば、ということで話し合いが進みました。以上です。ありがとうございます。

(続木副議長)

ありがとうございました。

それでは残りの時間で、各団体の皆様や他の議員からも、御意見や感想を頂戴したいと思います。恐れ入りますが、発言される方は挙手をお願いいたします。

いらっしゃいませんか。そうしましたら、まめまめの会さん、団体の紹介を兼ねて、

今回の意見交換の感想や意見をお願いいたします。

(まめまめの会)

今日はお呼びいただきましてありがとうございました。まめまめの会のことを簡単にお話しさせていただきます。私と共同代表2人で出席させていただきましたが、私たちの子どもたちは重度の障がいを持っています。私の娘は脳性麻痺で、自分で座ることもできなければお話をすることもできません。共同代表のお子さんは動ける医療的ケア児になります。生まれたときから地域に居場所がなく、保育園に入ることもできず、養護学校に通っているため地域にはお友達がいません。そういった状況の中で、養護学校の高等部卒業を見据えていたときに、卒業後もこの子たちに居場所がないということで、今、松本圏域でこのまま暮らしていくことの難しさを痛感しているところです。いろいろな方に御相談したりお話を伺ってきましたが、このまま何か待っていても状況は変わらないことがわかり、もうしょうがない、親たちでやるしかないということで、子どもたちは小学校高学年ですけれども、10年後を見据えて、高校卒業後の居場所づくりに励んでいます。安心して暮らし続けられる子育て世代に魅力的な、と言われても、私たち自身にとっては本当に暮らしづらい長野県です。

そうは言いますが、一人一人御相談をさせていただいたり、こうやってお話しさせていただくと、皆さん本当に温かく私たちの声を聞いてくださり、子どもたちが生まれた時よりも数段住みやすくなってきているなと思います。今日もいろいろな方たちが私たちの声を聞いて、考えてくださっていることにまず感謝したいと思います。今日は本当にありがとうございました。

(続木副議長)

ありがとうございました。

それでは、ピアサポート shushu さんお願いいたします。

(ピアサポート shushu)

私たちの活動は、ピアリイさんとまめまめの会さんがお話ししてくださったので、つまりそういうことです。病気や障がいのある子どもたちが暮らしやすい環境が整っているかといったら、そうじゃないです。これは当事者になって本当に痛感しました。ただ、私たちも誰かがやってくれるのではなく、当事者として主体的にいろいろな方と関わりながら、そういう環境づくりをしていきたいという思いで動いております。

こういった機会をいただきましたので、いろいろな御意見いただきながら、私たちも一生懸命活動していきたいと思っております。どうもよろしくお願いいたします。

(続木副議長)

ありがとうございました。

他に御発言もあろうかと思いますが、時間が参りましたので次に移らせていただきます。

○議長所感

(続木副議長)

最後に、山岸議長から御挨拶を申し上げます。

山岸議長、よろしくお願いいたします。

(山岸議長)

今日は、ありがとうございました。今回のテーマは「『選ばれる長野県』を実現するために～安心して暮らせる魅力ある地域づくりについて～」ということで、限られた時間の中でございましたけれども、大変熱心な意見交換ができましたことに、心から感謝と御礼を申し上げたいと思います。

意見交換の中で多くの貴重な御意見をいただきました。私のグループでもいろいろな御意見をいただきました。「選ばれる長野県」、このためには何といたっても住んでいる我々が素晴らしい県だと、そして県民の皆さんがこんな素晴らしい県に住んでいるんだと自信と誇りを持って、大いにPRできる県にしていかなければならないと思っています。私は、自信を持って長野県をPRすること、しっかりと自分で証言することで「選ばれる長野県」になるのではないかと感じています。長野県には素晴らしいものがたくさんあります。それをもっともっとPRし、また、素晴らしい県づくりに皆さんの御意見を生かしていきたいと思っています。

特に今、長野県は「郷学・郷就」ということで、ふるさとで学んで、ふるさとで活躍するということを進めております。長野県にも4年生大学がしっかりとつくられました。様々な学校もたくさんできております。私は東信の小諸市選出なんですけれども、東信では、軽井沢町、御代田町、また佐久穂町に、いろんな小学校、中学校ができ、都会からの教育移住の家庭が増えてきております。そういったことから、教育については選ばれてきているんじゃないかと思っているところでございます。

今日はいろんな意見を聞きまして、様々な課題があったわけですが、地域の多様な課題の解決に取り組む皆様と、行政が同じ方向を向いて、一体となって取り組んでいくことが、必要であると改めて感じたところでございます。私たち議員は、本日いただきました御意見をしっかりと受け止め、今後の議会活動に生かし、長野県を魅力ある地域とするために取り組んでまいりたいと思っています。

また、議員の皆さんにおかれましては、常任委員会の委員としての本来の役割を果たすには、積極的に行動し、また議員力を発揮していただくことが重要であると思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。また、身近で開かれた県議会を目指して、これからも本日のような活動を続けていければと思っています。

結びにあたりまして、最後に御参加いただきました団体の今後のますますの御発展、そして御参加いただきました皆様の御健勝と御活躍を心から御祈念を申し上げまして、御礼の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○閉会

(続木副議長)

山岸議長、ありがとうございました。

以上をもちまして、「こんにちは県議会です」を終了といたします。

参加者の皆様、誠にありがとうございました。